

オリーブの樹

第117号

2013年5月12日

شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



目次

- P 2 2013年の5月に 重信房子
- P 3 3月4月の歌 重信房子
- P 4 独居より 重信房子
- P17 リッダ闘争の頃、わたしは何をしていたか？ 森本忠紀
- P18 「革命の季節」書評 命を燃やした若者たちの墓標 大谷恭子
- P19 「革命の季節」を読んで 小西隆裕

重信房子さんを支える会

2013年の5月に

リッダ闘争から41年目の5月を迎えています。1948年の「ナクバの5月」以来、リッダ闘争の70年代から今に至るまで、イスラエルの占領・暴虐・パレスチナの「ナクバ」は、繰り返されています。今もガザ空爆や西岸での逮捕弾圧、パレスチナリーダーへの国境を越えた暗殺は続き、分離壁、入植地拡大と、むしろ悪質化しています。

近頃は、新たに「パレスチナ人専用バス運行」を表明しました。西岸自治区から毎日、何万人ものパレスチナ人がイスラエル支配地区へと通勤していますが、そのパレスチナ人たちはユダヤ人と別々に専用バスに乗せるというものです。南アのアパルトヘイト、アメリカ50年代の人種差別政策が、今、21世紀の世界に考案されるところに、ネタニヤフ政権の救い難い人種主義が現れています。

古代から、パレスチナは多民族・多宗教国家です。入植地を拡大し、イスラエルを「ユダヤ人国家」と言いくるめ、「パレスチナ和平交渉」でもそれを認めさせようとする現政権と「和平」を語ることは、パレスチナ側への譲歩を求めるものでしかありません。

アメリカはイスラエルの占領・人種主義を許し、「イスラエル非難決議」には拒否権を行使し続け、4月22日には「他国に売るのは初めて」という新型輸送機オスプレイや空中給油機などのイスラエルへの供与を決めています。しかし、どのような占領と人種差別支配を続けようと国連統合のパレスチナ国家承認に示されるように、イスラエル占領が止むまでイスラエルは自らの平和も安定もつくり得ないのは自明です。

日本は去年パレスチナ国家承認の国連総会決議に賛成票を投じました。日本は、政府にその意志があれば、日本の憲法に則って、9条に基づいた平和外交路線を徹底する国際貢献ができる今のところ唯一の国と言えます。それは21世紀に未だつくり得ていない国際秩序の指針をなす理想を示しています。ところが自民党安倍政権は真逆の道を歩き始めています。沖縄や米軍基地の治外法権状態のまま、唐突に理に合わない「主権回復の日」を始めたたり、5月3日には、トルコへの原発輸出に向けて原子力協定を結び、UAEや他の国々にも原発を輸出する考えを表明しました。また、隣国との緊張を高めながら、9条改悪に向けた「96条緩和」を参議選にも争点にすると明言し、日本の形を抜本的に変えようとしています。9条と脱原発を国是とする日本を、今も大多数の国民が求めていることは各種世論調査にも示されているのにです。傲慢な安倍政権の蛮行を許さない闘いが、今年程望まれている時はありません。

リッダ闘争の5月、ナクバの5月に日本の危機を改めて確認し、闘う戦列に連帯し、私もまた、共にスクラムを組みます。故丸岡修さんが「日本を人間の国へ！」と望んだように、パレスチナからトルコから日本を臨みつつ、人々は「脱原発平和交渉の日本」に連帯を示しているはずです。

そうした世界の友を視野に、日本で多様な闘いを！

5月8日

重信 房子

三月四月の歌

重信 房子

満開の白梅見上げトラックを風に抗い春へと走る

風に乗る獄舎に届く梅ひらひら車椅子行く足元に降る

競い咲きやがて一布の花筏彼岸に諸人連れゆく如し

癌癒えし我が身を包む花吹雪新しきこと始めたき春

キラン草タンポポなずなきゆうり草囚徒の行進足元に春

桐若葉日毎に増して風光る新しきこと始まる気配

花終えしタンポポそっと手にとりてふーっと一息希望飛び散る

のど仏ごくりとひとつ動かして死ぬる闘い君は告げたり

君の声五月の我が胸わしづかむ共に歌いし「惜別の歌」



独居よ！ 3月15日-5月8日

96条改変・9条改憲まで進む2013年は
今後の日本百年の岐路にあります(4月23日)

重信 房子

3月15日 今日は晴れて母の命日。ちょうど私の第一審裁判の終盤に入った2005年に亡くなりました。同年2月だったか、丸岡さんの母上も亡くなられて、お互いに反省を込めて慰め合ったものです。

Y先生、台湾からお便りありがとうございます。「台湾でのどかに大きな時間の中で生活している人を見ると、日本人が今いかに不幸かに思いあたります。イスラエルのユダヤ人以上に、ひょっとして不幸かもしれませぬ」とのこと。「一九三〇年の山岳先住民が、日本の警察権力に対して、大叛乱をおこした5時間の大作映画が公開されていました。日本ではアイヌを主人公とした劇映画などありえぬことで、この国の新しいアイデンティティ模索がわかります」と先生はフィールドワークの旅。

Uさん、Mさん、デジカメ歌人、Kさんありがとう。宮崎先生「早春」の一句。「梅の花儂く散りて白小紋」、雅ですね！

姉からはメイが3月に帰国するとの知らせが届きました。「イラク侵略戦争10周年のイベントなどのかかわりとのこと。久しぶりに面会できそうです。

3月18日 風が強い日です。ペランダの運動に出ると、どこからか風に乗って舞い散った紅梅の花びらがいくつか足元にきれいな紋を広がっています。パンジー、色とりどりに満開。戻って南側の窓の外を見ると、塀の外の桜並木の2本が早くも花を開いたようで、樹全体が淡いピンクです。でも夕方から風も雨もはげしく、夜中、雨の降るとしや降りの音が時々響いていました。今日はTV番組は「相棒」を見ました。

受けとった人民新聞に、ちょうど3月の「土地の日」にふさわしい記事「イスラエルの水資源政策は、パレスチナへのアパルトヘイト」が載っています。水源をパレスチナ人は奪われつつある実態を示した記事。入植者ユダヤ人の1日あたり約350リットルの水消費に対して、西岸地区農村のパレスチナ人は73リットル以下、ところによっては20リットル以下の場合もあるとのこと。

ちょうどイスラエルは新内閣を発足させたところで、一方で“中道”といわれているリブニ「ハトヌ

ア」党首を「和平担当」とし、他方でパレスチナ国家樹立反対の「ユダヤの家」ベネット党首に国際法違反の西岸入植住宅建設を管理する閣僚ポストを与えていることに示されています。「和平」も占領地返還もパレスチナ国家も認める気などまったくなく。パレスチナの土地も水資源もさらに収奪をつづける態勢です。あの10年前公判証人に訪れ、戦争の危機に戻ったライラや友人たちを思い返しつづ、もうイラク戦争10周年。あの頃のイスラエルの「9・11」を利用したパレスチナ人・自治政府アラファト攻撃もひどかったのを思い返しています。

宮崎先生、お便りと句、ありがとうございます。「ムスカリの調べ悲しきアイヌ曲」。ムスカリはアイヌの口琴。

3月19日 夜来の風雨が幻だったようなみごとな春の日！ 遠く霞たつように桜が咲きはじめています。塀の内側の桜はまだですが、雨が枯芝の下の緑の面積を一挙に潤し、陽の下で緑が広がっています。あたたかい春。八王子もめずらしく24℃-11℃の予想気温。廊下に貼り出された観桜会は4月4日。みんな楽しみの日です。今日から本格的に春！と実感できます。

竜子さん「オリーブの樹」と同時に届くようにとカラーの表紙の絵。水仙にこの一首となりましたか。感謝。うれしい絵柄を見ながら、寒い3・11から突然春の今日。そんなに日が経っていないのに。でも「オリーブの樹」はまだ届きませんでした。春の休み明けかしら……。宮崎先生、今日の一句。「笹の葉の今日も戦ぎて日は暮れぬ」。Tさんもお便りありがとう。体調はどうですか。泉水さんの国賠訴訟、こちらは協力できませんが、ひきつづきががんばってください。Mさん他友人たちの異議申立、どんなに心強いことでしょう。みんなに感謝と連帯！

3月20日 春分の日で休み。塀の外、直線距離150メートルくらいか、ピンクの花盛りが4、5本に増えています。桜並木の下を幸せな気分の人々が行きながら見上げているでしょう。グラウンドの一角の桜はまだ蕾。今日は米軍のイラク侵略から10年目の日。

どの国も当時の判断を問い返し、英国でもブレア当時の首相が責任を問われたように、きちんとけじめをつけようとしてきたのに、日本政府はなしくずしに放置。無責任です。「大量破壊兵器」など存在せず、米国依存のあり方を問う機会であったからこそ、それをさせない政治、官僚、マスコミの意向が貫徹してきました。唯一民間のNGOなどがあの戦争を問い、今もあの戦争の結果として、悲惨な戦乱被害にあるイラクを語り継ごうとしています。こうしたささやかな力がなければ10年目をふり返ることもむずかしい。こうしたところに権力の都合の悪いことはあいまいにし、また「米国頼り」をくり返す日本の支配層の腐敗を感じます。今日は彼岸の中日。昼膳におはぎが添えられました。

3月21日 夕方「オリーブの樹」116号受けとりました。表紙の絵、色付きものを竜子さんに送ってもらっている分、カラーならいいのにとおっしゃいます。「おしくらまんじゅう」の絵も楽しげですね！「3・30土地の日」、1・2月の歌、編集室ありがとうございます。多忙な米澤さん萩尾さん書いてくださってありがとうございます。「出来る事から細かく続けよう」米澤さんら粘り強い闘いが地道に続いてきたから、多様ないろいろな運動がさらに続いているのを実感します。「アベノミクスと言うウタカタは早晩破滅するに違いない」。希望の連帯に励まされています。萩尾さんも、アベノミクスで浮かっているがいつ崩壊が起きても不思議ではないと断じています。こうして「さわさわ」の仲間たちに書いてもらい、また土曜会やアラブ時代の友人たちにも書いてもらい、みんなの力を借りて読んで楽しい読みごたえのある「オリーブの樹」にしていきたいです。エッセイも思い出も気軽な話も詩もお願いします。

「星星峽」(せいせいきょう 幻冬舎のPR月刊冊子)2月1日発行のもの受けとりました。「今月の書評」を大谷弁護士が「革命の季節」について書いてくださっています。とてもいい文ありがとうございます。短い書評の名文で、過分に紹介くださってありがたいことです。[この書評は全文を別掲 編集室]

「3・30土地の日」のパンフや資料ありがとう。UさんMさんYさん他お便り感謝。

3月22日 桜日和。遠くの桜並木満開に近い。こちらの運動場の1本目の桜も3分咲きくらいか。今日は「4月4日の観桜会参加しますか？」と聞かれて「参加します！」と伝えました。今日は「教育的処遇日」

のため運動などはありません。桜の美しい時なのに少し体調がすぐれず、肩関節の痛み、それに2月に入れた義歯の具合も悪くなって、鎮痛剤をもらって休憩です。いろいろな資料やお便り届いています。ありがとうございます。

3月25日 花曇り。今にも降りだしそうな空。おととい東京の桜は満開とのことですが、八王子はまだこれからです。花冷えというのか寒く、しばらく入らなかったスチームが5℃だけ入りました。今日は講堂でお彼岸の法要があり、私も読経の合間に焼香し、両親友人仲間たちとあいさつしました。夕方お便りありがとうございます。便りはやっぱりうれしいですね。夕方「手紙で一す」と持ってきてくださると、華やかな気分になります。Mさんも宮崎先生も、いつもすがすがしい句が添えられていて刺戟されます。「生垣の夜の水仙寡黙なり」の森本さんの句も「過疎の村人無き庭にすみれ草」も、今句い立つ春が等しく陽を浴び夜を迎え巡っている実感が届きます。「癒えてみあげる桜(はな)のなのお美し」私も一句。

3月26日 昨日とちがって、起床時から陽がキラキラ。ペランダの運動に出ると、大きめのプランターに盛り合わせた鮮やかな色やピンクなどの鮮やかなシクラメンの花。ああきれい！とため息が零れます。でも寒くて今日は朝だけスチームが入りました。体調先週から節々や歯やあちこち痛むなあ……と思いつつ、『中東戦記』や「季刊アラブ」を読んでいます。改めてアラブの風土や事件や文化のことを読むと、当時まっしぐらに革命政治活動で世界を選り分けていて見落としてきたもの、学ばなかったこと浮き彫りになって学習意欲を掻き立てられます。『興亡の世界史 イスラーム帝国のジハード』(講談社)も読んだところです。ちょうど『レッド7』が届きました。ありがとうございます。作者の山本さんは時代にも人々にも敬意と愛情をもって描かれているので読みやすい(事件の痛みにもかかわらずという意味ですが)のに助けられます。

3月27日 今日は西行の“ねがわくば花のもとにて春死なん……”の望月の日なので、昨日並みの晴天を！と祈っていましたが、雨。運動も中止です。Kさん「春満開です。すべての花が咲きみだれています。その気力に少々息苦しく落ちつきません。桜をもう少し静かに愛でたかったのに」とのこと。あわただしい目眩めく春がうかびます。そうですね。4月10日、彼の命

日がもうすぐですね。その分、春を静かに夫と寄り添って愛でたいでしょう？ 元気でいてください。Mさん老人ホームへの慰問、楽しそう。“三線抱え桜咲き初む城下町老人ホームの慰問に向かう”

3・30土地の日、檜森さん命日、連帯します。

3月28日 桜日和になりました。天気予報は雨でしたが晴。庭を見ると満開にグラウンドの桜が咲いています。早いなあ。4月4日の観桜会はまだ花が咲いているかな……。昨日は雨でグラウンド予定がつぶれましたが、今日はベランダの運動になり、ちょうど桜が咲きそろった今週は一度も外に出て見ることができません。ベランダの囲いのすき間からのぞいて、「満開よ！」とみんな花を楽しんでいます。足下の大きなプランターはみごとなシクラメン、小さいプランター2つには小さいパンジーがいっぱい色とりどり競い咲いています。葉ボタンも伸びて菜の花のような蕾がたくさんついています。萌えて一瞬ずつ育っています。つくしもきっと増えていることでしょう。

午前中主治医の診察時、今日は歯科治療があると伝えてくれました。奥歯がグラグラになってしまい、固定するか抜いてもらうつもりです。歯磨いているときにひっかけて割れてしまったみたいです。午後歯科では「根っここの3つのうち2つが折れて露出しているので」と抜いてくれました。そこでまた義歯の調整が必要で、保健課長と面談して指名医を呼んでもらうこと願いました。

夕食時前、Yさんからの資料やUさん他のお便り受け取りました。Uさんは高松で高山文彦さんや金井塚弁護士と会った話を伝えてくれました。金井塚弁護士は私が2000年11月8日高槻で逮捕された時、すぐ「救援連絡センターへの連絡」を私が主張したので、高槻署にかけあってくださった恩人弁護士です。「会っ

たときの印象は？と聞かれて、金井塚弁護士は『髪の毛の長い重信さんとばかり思っていたのが、普通のおばさんだったので、あそうかと理解するのに一瞬とまどった』と失礼なことを言っていました」との手紙。房で声をあげて笑ってしまいました。すみませんね、本当におばさんでしたし年もとります！ 「でも山中さんが『センターからすぐ弁護士を捜した時、二つ返事で行ってくれたのが金井塚弁護士だ』と言っていました」とのこと。本当に感謝。

3月29日 桜満開！ もっとそばで見たい！ でも東拘では見ることのできない桜です。今日はメイと面会できました。去年の11月以来で久しぶり。言葉が溢れてあれもこれもと思いつつ30分で話せることは限られているのであせってしまいます。話の途中で姉夫婦も一緒に来ているのがわかりました。メイが泊まったので一緒に八王子まで来ていて、メイ一人の方が話がいっぱいできるだろうからと待っていてくれるとのこと。メイは「イラク戦争10周年」の集りで、広島や沖縄など地方で活動していて、東京に昨日戻ったとのこと。「広島は桜はまだで、沖縄ではもう終わっていて、今年はまだ見られないと思って東京に戻ったら満開！」とニコニコ。あっという間でした。メイのニュース他には？と聞くと、「うーん。『アラブの春』の正体」がまた増刷するって言った」とのこと。「土曜会も出てね！」と伝えて別れました。

MさんNちゃんの写真、それに子どもたちといっぱいつくし摘んだとのこと！ いいね！ つくしは花粉症に効くらしいのでいいですよ。宮崎先生、“これは誰”思いがけずの古写真“無き知恵を絞れど【無】は無なりけり”。Tさんは“人の世に見えつ隠れつつし出ず”。私も“つくしんぼう囚徒の心に春一杯”。春はやっぱり希望がふつふつ湧きますね！ 宮崎先生も“桜花嵐を受けて強く咲く”がありましたね。

3月31日 昨日と今日と春雨。ちょうど満開になった運動場の桜は時が止まったように霞みけぶっていて、花散らしもありません。寒さが戻って、昨日はスチームが朝入りしました。寒さは花を長持ちさせてくれるので、この寒さは歓迎です。昨日の「土地の日」は日本ばかりか世界の各地でパレスチナを結びながら、闘いと占領地の解放を誓い連帯したはずです。

4月1日 週末の寒さを脱ぎ捨てて季節が「ことり」と音をたてて動いたような春爛漫の晴の八王子の春で

す。窓から眺める運動場の桜は満開。薄いピンク、白、少しずつ色の違った桜がきれいです。ベランダに出るとモケットの上は飛んできた桜の花びらが足下に紋をつくっています。仕切りのすき間からのぞくと、北側のプールのまわりの桜は巨木で、このプールのまわりで毎年観桜会が行われるのですが、もう散り急いでいて、地面はピンクの絨毯です。プランターの三色スミレはいっせいにすき間のないほど色とりどりの花を咲かせ、葉ボタンの丈は伸びて菜の花を咲かせ、シクラメンも真紅ピンク白、いっせいに季節の「ことり」と廻った音を聞いて立ちあがったような風情。何をやるわけでもないのに、こうしてはいられないと“やる気”を掻き立てられています。

Kさんありがとうございます。ゴラン高原の記事はまだですが、お便りはいただきました。メイの『秘密』を読んだ感想送ってくれました。厳しい条件の中での子育ては較べることはできないけれど、自分の身分を友たちに話せない淋しさの共通点など、読みつつ感じられたとのこと。子どもたちの自分たちで成し遂げようとする力に驚き助けられることなど、子どもたちの達成感に輝いていていいですね。子どもたちには何も十分にできなかったし、逆に助けられていた私たち大人でしたから。Kさんら、みんなの前向きな活動・団結した力にさらなる発展祈ります。みんなよろしく！

外を見ると運動場の常夜灯に輝く夜桜は静謐な威厳が支配しています。

4月2日 春を楽しもうとしているのに雨。桜が台無し……。先週も水曜日のグラウンドの運動日は雨で、今日ももう満開の桜はどうなるでしょう。10-7℃と寒く、朝はスチームが入りました。

新年度景気はムード的に上がり、自動車などの輸出産業は為替で増収。でも石油から小麦にいたる原料は逆に輸入価格が急騰して、基礎的な物価が上昇しそう。給料は結局一部の輸出大手がボーナスを上げるといことらしいけど、ムードの実体は物価値上げや給料上がらず、逆に正規雇用の者まで自由に解雇できるようにしようとする経営側の論理がまかり通っているばかり。医療や保険料も一般の人々には出費の拡大の見通しが新聞の記事に日々出ていて、さらに来年は消費税。安倍政権は参議院選に向けて支持率アップの「長嶋、松井国民栄誉賞」など、金融政策に上乘せの宣伝効果ねらいです。民主党のひどさの後遺症のまま自民・維新などの「改憲」煽動の危険な“現実”に流されてい

きそうな日本のこのムード。「改憲」をめぐる国民の側のノーの声を「脱原発」と共に闘う年になりそうです。今から何年の攻防でしょうか。

「レコンキスタ」、「テロルの遁走曲」他ありがとう。「観桜会旧知に逢いて時忘れ」の他、宮崎先生の八旬お便りありがとうございます。八王子医療刑の観桜会はあさってです。晴れるかしら……。

4月3日 今日雨！ 運動場にもベランダにも出られないです。でも朝から「今日指名医の先生が治療に来ます」と伝えられました。朝9時過ぎから11時頃まで。28日に奥歯を抜いたので、「本格的には抜いた後が固まる2-3ヵ月後に歯の修正をする」と言われたのですが、ズレて痛みがあり調整をお願いしました。器用に義歯をさっと修正し、噛み合わせのズレをなおしたり時間がかかりましたが、1回の診察ですむようになおしてくれました。あとは固まるまで3ヵ月後のこと。「2-3ヵ月後、私がまだここに居るといいのですけど。お願いします」と感謝して終えました。

午後は主治医の診察。4月2日に採血と検尿・便を行った結果を伝えてくれました。「腫瘍マーカーCEAは3.5、CA19-9は10.7で正常範囲です。便には潜血反応があったがポリープの摘出を行ったあとで、また検査すればいいでしょう。菌からの出血も潜血反応に出ますから。また重信さんの場合、移転、再発、原発のガンは腫瘍マーカーだけでなく、定期的にチェックしておく必要があります。再発などガンになりやすい体質なので」とファイルをチェックし、「去年7月10日以来なので（6月25日の手術のあとで撮った）肝の腹部と肺の胸部のCTをまた撮ってチェックしましょう」とのこと。それで近々CTを行うことになりました。

Kさん、きれいなゴラン高原の花の記事、めずらしい！ とってもうれしい、そう、こんなふうにベカーも花畑になるんです！ 「ゴラン高原の溪谷にて白いペルシウム、シクラメン、赤い花はアジアティクス、キンボウゲ」と記事に。赤旗日曜版ですって。「ペルシウム、シクラメンは岩場によい香りをさせて群生し、チューリップや赤いキンボウゲ、黒いアヤメ、アネモネなども花壇に見慣れた花が荒野に無造作にあります」と記事の文。そうなんです！ うれしい記事です。感謝。

Mさん本とお便りありがとうございます。読みたかった『パレスチナ問題とキリスト教』（村山盛忠牧師著）、それに米澤さんの緑の党、長谷川さんの推薦の文いいですね。



沖縄の山城さんと両方が参議院選に勝利できるというのですが、さっちゃんへの原稿も「からだと心、病気のつきあい方」をテーマに書いたのですね。直視する痛みと鋭さを愛で包んだ文ですね。浅川さんの詩はとってもいい、字も。店の壁に書いてもステキです。今日のお題は桜。“花見時春寒いまだ去りやらず”、“春の陽を浴びて古枝蘇る”。宮崎先生、まだそちらの桜は散っていないようですね。

4月4日 今日予報通りからりと晴。観桜会日和です。11:45に集合して桜の木の下へ。ここはプールを取り囲むように染井吉野の老木、山桜、枝垂れ桜、八重桜がみごとに咲きます。昨日までの雨で染井吉野は満開を過ぎて、それでも美しく散り続けていましたが、みごとな枝垂れ桜は満開。満開の山桜。まだつぼみでこれからの八重桜と花吹雪を浴びながらまず昼食。ピピン焼肉、ナムル（もやし、ニラ）、ほうれん草のごまあえのおかず、黄桃半分（缶詰）の入った折詰とライスのメニューです。食べていると舞う花片が折詰にまで降って風流というか……。食後12時半からは写生、イラスト、俳句のいずれかの創作作業13時半近くまで。書くよりも花を何度も見上げたりしながらそのまま居るのが気持ちいい。陽も暖かです。最後に花見でプールのまわりを一周し、また庭から桜を眺めながら花見を終えました。ずっと外に出る機会がなく、桜を直に見られなかったので心なごむ嬉しい花見です。“癒えて桜吹雪に身を晒し生きる力のふつふつと湧く”。こんな一首が書けました。俳句は（または写生・イラスト）提出しないとイケないのですがまだです。まだ切までに日はありますが（短歌は提出不可です）。

夕食前、メイが友人と面会に来てくれましたが、友人は会えず。前に一緒に来たメイの友人は前は会えたのに（2011年）。悪化してますます親族しか会えなくなっていることに憤慨しながら、でも短い間に前回話さなかったことを語り合いました。中東の状況など話さきれないうちに30分は終了。でも昨日4月3日は12年前メイとみどりが帰国した日も語りました。そして友だちによろしくね！と別れました。もっとじっくりと話がしたい……と、いつも思います。

Kさんありがとう。「かりの会」のお便りは来週になりそうです。また『モサド・ファイル』も入手。来週にはまず『パレスチナ問題とキリスト教』を読みたいと思います。このごろ（昔から）誤字が多く、読みにくくすみません。前回も「らんまん」とか間違ってたでしょう？ 肘をつけずに字を書くので、長くなる

とお便りもとぎれてしまう友人たちもいます。こちらからお返事を出せない分申し訳ないです。また身の回りのこと伝えてください。

あ、MさんY子さんハッピーバースディ！

4月5日 今日は八王子も20〜9℃で、最高温度が20℃に達するようになりました。ここ2週間以上行けてない南運動場はちょうど満開の盛りを終えて散りはじめました。ウィークデー1日30分の運動はベランダで行い、雨が降ると室内体操ですが、1週1回水曜に運動場のトラックを走ったりできます。水曜が雨続きで、まだちょうど盛りの花時を逃して週末です。明日夕方から暴風雨の予報で花は来週まで持たないようですね。

メイと面会に来て会えなかった女友だちが窓口で本と、メイと写った写真など差し入れてくれたものを受け取りました。ありがとう。いつか会いたいです。またKさんが送ってくださった「カリはゆく」と『「拉致疑惑」と帰国』の出版記念案内届きました。とても世間的にも関心を持って読んでもらえそうですね。出版祝！ぜひ読ませてください。楽しみにしています。これから北朝鮮との緊張がますます国家レベルでは先鋭化しそうです。焦点化されていく中で、かつての闘いの総括を重ねつつ、民衆レベルで日本のあり方を問う契機にできそうです。なつかしい名前を呼びかける人、賛同人にを見つけました。出版記念会の皆さんによろしく！

Mさんお便りと写真感謝。“親子孫墓参に土筆仲間入り”の句と共にM家の墓の前の娘さんと孫の写真、本当に！Mさんそっくりの可愛い5歳の孫、似てます！「誰かに似てるだれだろう……あ、自分だった」という爺です！娘さんも似てますよ。子どもも孫も、そして2度目の結婚の娘たちも小学生のこれからの年代。脱原発は切実な闘いですね。

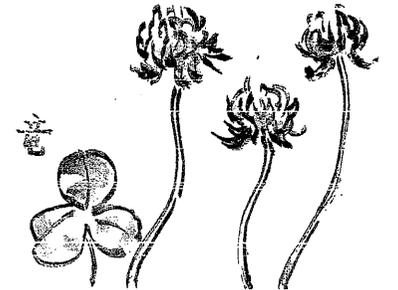
姉からは「花粉症が経験したことないほどの重症で、お花見にも行けないうちに見頃がすぎてしまったようです」との便り。年々ひどくなっているようで心配。何か解決方法はないのでしょうか。

「キタコブシ」もその他雑誌資料もありがとう。「キタコブシ」で“寛解”したあとの将司さんの様子も他の人びとの様子もちよっとわかって楽しい。利明さんの体調はまだ十分ではないままのようですが……。

4月6日 「爆弾低気圧」といわれながら午前中は静かな曇り空。午後には雨と風が桜の花片を散らしていま

したが、まだ大嵐ではない夜です。昨日からずっと『パレスチナ問題とキリスト教』を興味深く読んでいます。村山牧師は関西でパレスチナ連帯の活動などで有名な方です。なぜパレスチナ問題にかかわられたのかから平易に語っています。

1975年10月、WCC（世界教会協議会）主催のキリスト教とパレスチナ問題の協議会に参加したときのこと、若いオランダの代表が「私たちはユダヤ人に大変な罪を犯してきた。オランダの教会ではユダヤ人に対する罪責の思いで毎年聖地イスラエルに行き、ユダヤ人との対話を求める旅を行っている。みなさんもユダヤ人との対話を求める計画を立てて下さい」と訴えたという。するとアラブ世界から参加していた代表（当時ナザレの牧師後に聖公会のエルサレム主教のリアーハ・アブ・エル・アサル牧師）が、「私は先祖代々パレスチナに住んでいるパレスチナのアラブ・キリスト者です。私たちが住んでいるパレスチナの大地では、ユダヤ人を迫害したことは一度もない。ユダヤ人を迫害したのはヨーロッパのキリスト教世界のあなたたちでしょう。そのかたがわりをしているのは私たちアラブ人なのです。あなたは今、ユダヤ人との対話を求めてパレスチナの大地、イスラエルにやってくるといった。あなたはキリスト教徒でありながら、なぜパレスチナに住んでいるパレスチナのキリスト者との対話を求めてやってこないのですか？」と問われて、「パレスチナのキリスト者が見えなかったこと」にハッとしたことからとらえ返していったとのこと。そして自分たちがいかに「約束の地」「予言の成就」といった「ユダヤ・イスラエル史観」に立っていたのかととらえ、シオニズムの犯罪的な行為、パレスチナの真実を学び深め訴えていく内容が整理されて記されています。知らないことも多いです。たとえば、内村鑑三が「約束の地」「ユダヤ国家の出現」を「予言の成就」と言った同じ時期に、ガンジーは、「パレスチナはアラブ人の土地である。ユダヤ人をアラブに押しつけることはまちがっており非人道的。パレスチナの一部、または全部がユダヤ人の民族的郷土とされるならば、人道に対するはんざいというべきだろう」と述べたことを記しています。それに旧約聖書だって（百歩譲って）「約束の地」なら「アブラハムとその子孫」つまりイシマエルであり、当時イサクは生まれていないのでパレスチナの地に対する歴史的権利なら、イシマエルの子孫（今日のアラブ人）には同等の約束の地であり、「ユダヤ人の約束の地」とはユダヤ・イスラエル史観。「自然で歴史的権利」はまさに土着のパレスチナ・アラブ人こそ



が主張しうる言葉だと述べています。このように多面的にキリスト教世界のあやまった見方をとらえ、また現地を訪れた様子、さらには追放されたパレスチナ人の生活がどう奪われたのか歴史認識を改めるよう訴える論理的倫理的力があります。そして2009年12月15日、パレスチナ教会代表者たちの「パレスチナ・カイロス文書」を紹介し、神学の名で占領が正当化されることに抗した闘いが続いていることを明らかにしています。一気に七章まで読み終えたところ。キリスト者家族の戦士が何人もいたPFLPの仲間や家族の発言を思い返し重ねつつ読んでいます。夜終章まで読みました。八章は中東キリスト教とは何かを歴史的に説明し、コプト、アルメニア、シリア、アッシリアなどオリエンタルオールドックスなど学べます。ヨーロッパキリスト教史観によって無視されてきた本来のキリスト教の人々、共生を歴史・文化としてきたこれらの教会の2000年つづく原理は、パレスチナ・アラブへの侵略に抗する占領に与しない「共生」の根本があることを実感します。著者の人間的品性に感応しつつ読み終えました。

4月8日 今日はCT撮影を午後行うので昼食はその後になると伝えられました。CT室に歩いていく窓の外にはまだ山桜、八重桜が咲いています。30分で終了。「創」「紙の爆弾」「死刑と人権」「人民新聞」他ありがとうございます。また前の日誌で金井塚弁護士のこと書いたので、「おもしろかったです。“関西びっくり大弾圧”でも金井塚弁護士には被逮捕接見など奔走協力頂きました」とMさん、またMさんも同じように笑いつつ思い出したのは、歌仲間の夫の句集川柳に「赤軍派地球の裏で歳をとり」というのがあることを教えてくれました。逮捕されあまりに年をとって変わっていったとのこと、歌人たちが詠んだ歌をいくつも送ってくれたこともありましたが、メモしておけばよかつ

た！ もう忘れてしまいましたが、金井塚弁護士ふう反応でした！ 逮捕直後の当時は苦笑い、今なら楽しんで笑えます。

ウクン、今日のお便り差出人が書き忘れていました！でもこの間のお便りの便箋と封筒同じと確認して交付してくれましたよ。116号「オリブの樹」の感想ありがとうございます。反応があるとやっぱり嬉しくて、またはりきってしまう私です。宮崎先生「春の野辺」の俳句“春の日にうかれて散歩足軽く”“蝶も舞う緑の野辺に春霞”穏やかな散歩姿が浮かびます。私も週末に凡作観桜会提出用の俳句詠みました。“癒やし我が身を包む花吹雪”“それぞれの笑顔が出合う観桜会”です。今朝提出したところです。Tさんのは“うららかなピカピカに車洗う人”春らしい句、いいね！ Mさんの兄上は大腸・肝臓ガンの手術3年のクレーアですって。おめでとうって言ってね。あ、Tさん病院検査行っているかな。米澤さんTさんHさんの参議院選準備、健康で楽しみつつやってください。

今日は花祭です。豪徳寺の枝垂れ桜の下で背伸びしつつ甘茶を掛けた花見堂のお釈迦様に一礼。

4月9日 ベランダに出ると伸びきってひよろりと菜の花のように丈をそろえて葉ボタンの花、シクラメン、パンジーと花盛り。「この花なんというの？」と若い患者。「シクラメンよ。ほら、シクラメンの香りの歌あるでしょう」と言ったら「何それ？知らないよ」「あー、昔の歌。お母さんやおばあちゃんにきいた！」と他の患者。フーム、私が海外に出てから知った歌なんだけど……。昔の歌だったか……。

午後はTV談志の娘のインタビューのパラエティ。Oさん『パレスチナに献花を』の本ありがとうございます！土地の日、檜森さんが自決した10年目に出版したのですね。本の装丁も品格があって素敵です。かもめの噴水前で3・30に贈呈のサインしてくれてありがとうございます。内容はパレスチナを知らない人には読みにくいかもしれませんが、10年目の墓碑銘としてもよかったです。

宮崎先生、京都へ行かれたのですね。「久しぶりに京都に行ったのですが大嵐が来るというので、“惜しまる嵐の前の京桜”“春の京を嵐に追われエッサッサ”の句。でもちょっとでも花見は叶ったようですね。

デジカメ歌人から「外国では花粉症は無いのでしょうか？」との質問。うーんえーと、私のまわりアラブでもみかけなかったけど。アラブも松や杉、ヨモギの花など舞いますけど。東欧でも中国、ロシアでも舞うの、あれはポプラかな？ 日本のようなひどい花粉症

は聞かなかつたけど……。君が代と日章旗に拝跪せぬと誓い起立せぬ君は我が誇り”くにごまえ人を閉じ込め囚とし玉座を入れて国と呼ぶる”。柔らかそうで志操堅固なデジカメ歌人の彼らしい歌。「呼ばわる」でもいいですね。

「支援連ニュース」に渡邊弁護士のインタビュー文載ってて思い出し、思わず一人笑いました！「重信さん入ってきてなかなか席に座ってくれないんです。不審そうに私を見ていて、あいさつして話を始めてもぎこちない感じで、なかなか噛み合わないんです。1週間後ぐらいにまた面会に行ったら、『この前は来るって伝えられてなかったから、用心しちゃって』と、重信さんがうって変わって明るく言うんです。中東だと拘置所とか平気で買収がきくところだから暗殺される危険もあるんですね。それを心配していたんですよ。だから私はモサドの職員と間違われた訳です。(笑)」と語っています。当時の逮捕後の緊張など思い出し、またニヤッと笑いました。私の公判始まる前後のこと。すでに3人の弁護士が付いていたのに、弁護団から何の前ぶれもなく「弁護士」と名乗る男が接見要求！「確認できない」と面会拒否しようと思ったけど、手違いのまま面会室へ。すみませんでした。“モサド職員”とまではいわないけど、それが4人目の弁護士渡邊先生との出会いです。誠実さ、集中力、常に公判の疑問や問題意識をフォローしてくれて、被告にいていな最良の弁護士といえます。2010年8月16日に面会の最後の約束の朝に刑の執行となり、以来会えていません。「東ア」「よど号」と今もずっと関わってくださってありがとうございます。

4月10日 今日はノート検査。月1回ノートチェックがあります。それから3月21日以来初のグラウンド運動。あーあ、みごとな桜はほとんど塀の外の並木も運動場の桜の老木、山桜、枝垂れ桜も散ってます！でも1本細い桜が満開でした。それにあちこちにタンポポが咲き乱れ、クローバーも咲き初め、けたたましい赤のツツジも咲きはじめています。なずな、ははこ草、紫色のキラン草もうれしい。トラックを2周走り、いつのまにか緑色に変わった芝に腰を降ろしたり寝そべったり柔軟体操しながら「気持ちいいね！」とペチャクチャ。東拘の友人たちに味わってもらいたい春の風と匂いです。

午後は診察。「CTは私が見た限り異常ないと思いますが、今専門家に画像チェックしてもらっているので22日にはわかります」と主治医。

Yさんよりお便り。5月出版に向けて丸岡さんの本作成の追込み中とのこと。ありがとうって編集メンバーに伝えてほしい。カルロスからも便り。「3・8女性の日」の祝カードや似顔絵など。「チャベス大統領の死は残念です。哀悼と共にひきついで闘う人びとに連帯を送ります」と彼に伝えてください。Mさん、祝パースディ！娘たちと花見、墓参に加えて「小出さんが桜がきれいなのでぜひ来てください」と誘ってくださって、年1回の「京大原了力学験所見学に子供といきます」とのこと。子供たちとっても良い経験ができましたね。「親子して原子炉見学の春」。娘たちも美しい少女に成長し、絵も大人の上手な絵のよう！春の喜びです。Mさん、もうガン手術から6年半ですか。面会した頃は手術の成功の話をしながら、私がガンになるとは思っていなかったですね。私の方は3年目に転移再手術でしたから、Mさんの方はもう大丈夫ですね。再会を！との励まし感謝と共に！

4月11日 今日は11時に主治医と外科医から呼ばれました。「ポリープの治療方針が確定したのでお知らせします」と、去年11月26日、盲腸近くのポリープを内視鏡手術行った際新しく発見された直腸とS状結腸の境のあたりにある1センチの扁平ポリープの摘出について説明してくれました。「ヒダの裏側のところにフチが見えているポリープが平板にあって、うしろ側が見えない状態ですが、EMR（内視鏡的粘膜切除手術）という方法で平坦なガンの粘膜下に液体など注入して病変を隆起させ、ワイヤーでガンを切取るというやり方でやります。リスクとしては『腸管穿孔』がデータでは1000人に一人の割合、『出血』が100人に一人の割合で起こっている。取りきれなかったり、そうした事態には開腹外科手術を行うようにします」とのことです。難しい箇所です。「これまでも外科・主治医の先生を信頼して手術してきたように、私の方はいつでもいいですのでお願いします」と伝え、手術に署名指印しました。手術日は未定です。またこの間、皮膚が一枚剥がされたようにヒリヒリと痛み、帯状疱疹が出てしまっていること、昨日伝え忘れたので伝えました。主治医は「すぐ抗ウイルス剤4錠を1日5回服用し、軟膏は1日3回塗るように。早く治療すれば広がらないでしょう」と対処してくださった。本人は元気で若いつもりでも、歯だポリープだ帯状疱疹だと、案外次々来ますねえ。同年代の友人たちは元気でしょうか。

Mさんも渡邊弁護士の記事を見て笑ったのですって

ね、お便りありがとう。対話するように、こんなふう書いてまたお願いします。Kさん、昨日彼の命日でしたね。4月8日お釈迦様の誕生日はお寺巡りをなさったのと。悲しみどっと湧きでてくる四年目の命日と書いておられます。でも春の良き日を命日とされて、心を穏やかに彼はよりそっていますよ。楚々とした山シャクヤクの花ありがとう。Iさんは10日ハッピーパースディでしたね。良い年を迎えてください。M、写真ありがとう。またマイク争奪戦の孫たちと来てね。

4月15日 週末は帯状疱疹の痛みも和らいでいたのですが、今朝起きたら風邪気味。何十年ぶりの風邪。のどの痛みと鼻水が昨夕からあったのですが、すぐタイツ、キルティング下着、靴下2枚と身体を温め、ペラダ運動にもパジャマの上にカーディガンで少し暑い汗かきウォーキング。房に戻って下着替えて厚着。体温調節が整ったのか、夕方には良くなっています。日本に居た時にはよく風邪引いて夏も引いてましたが、アラブの年寄りに教えてもらった方法で全然風邪と無縁になったのですが。(方法は簡単、入浴したら必ず一年中冷たい水で最後に手足顔を洗ってよく拭くこと。冬はさらに外出前に顔と耳の後ろを水で濡らしてよく拭いてから出かけることです。)

Mさん、短歌誌出詠冒頭に『革命の季節』を読んだ八十歳の方が、四首詠まれたと送ってくださったとのこと。楽しみに待ちます。地元で喫茶店オープン準備中着々ですね。また奈良女子大の若者たちとジャズの交流も楽しそう。ウクライナのナターシャ・クージーの歌はいつか聞きたいです。

今日は春の蚊を見つけました。房にゆっくり飛んでいました。

4月17日 昨日は父の命日。それにコーラスで新しい歌「いきいき生きる」を習いました。この歌は石巻小学校の新しい校歌となった井上ひさしさんの詞の校歌。すばらしいものでした。

今朝は看護師から朝食時突然、「今日の朝から検査のためメディエフ（濃厚栄養ドリンク 200ml/200kcal）を飲んでください」という。「内視鏡手術のことは聞いていますが、検査のことは聞いていません。何の検査ですか？」と訊ねると、「それはあとで看護師長が主治医に聞いてくれますか？」と言われたので、「今すぐ何の検査かだけでも確認してください」とお願いしました。看護師長がみえて、「先週主治医と医務部長（外科医が新しい医務部長になったらいい）が内視鏡検査の

こと説明しましたね。それを明日午前中やるので、腸の洗浄が必要です」という。「え、まだ帯状疱疹の薬も飲んでるところだし、腸の洗浄にはいつも3日、少なくとも2日かけています。遅らせてほしい」と言うと、「大丈夫、腸の洗浄は明日起床前から下剤飲んだり、浣腸もやります。内視鏡専門医が木曜に来るので、それに合わせて準備することになったので」とのこと。うーん。「午後10時にDrと話すように」とのこと。今日から明日の準備のため、食事はメデイエフだけとなりました。EMR（内視鏡的粘膜切除手術）手術なので主治医ではなく専門医がやるのですね。

午後、主治医の診察。「主治医を信頼して署名指印したのですが、他の専門医のDrが行うとのこと。いつももう少し前に話してくださるので……」と言うと、主治医も前回説明していなかったと恐縮しつつ、自分の技術レベルでは難しい位置にポリープがあるので、毎木曜に来る専門医が行うこと、帯状疱疹も問題ないだろうし、明日を逃すと5月の連休明けになってしまうので説明された。そして私の方でどうしても都合が悪ければ再検討してくださるとおっしゃったが、すでにいろいろな調整準備されています。私から「一つだけ確認したい。木曜というところが週末で、ここの週末の医療条件は緊急手術に対応し得ないのではないですか。手術はそのため月曜になると思っていたのです。出血や腸管穿孔の場合、週末でも対応可能でしょうか」と訊ねました。Drは「専門医の来るのは木曜で、それは5月になっても同じ条件。また出血、腸管穿孔のリスクは1週間続くと考えられる。週末最悪時は呼び出して対応できるようにしている」とのことだったので、すでに各部署の準備調整済みなので、明日10時からのEMRを行うことにしました。今日から点滴で食事なし。夜下剤、朝下剤ムーベン2〜3リットルで



洗浄して10時から手術。うまくいけば午後には普通に過ごせると思いますが……。今はもう点滴柱をひっぱって過ごしていくのです。

夜、お便りや資料。M子さんありがとう。Kさん、宮崎先生、感謝。

4月18日 朝6時からムーベン2リットルを8時半過ぎまで飲み続け腸の洗浄。9時45分まで13回のトイレ往復。9時50分過ぎ手術着に着替えて担架で南棟から本棟4F手術室へ。所長、医務部長、主治医立ち会いのもと専門医によるEMRが10時から始まりました。ちょうどモニター画面の反対側に向いた格好の私は、時々首をまわしてモニターを見ていました。首が痛い。主治医が「後で写真見せますから」と言ってくれましたが、時々興味深くて、それでもモニターを見ていました。30分くらいで病変の下に生理食塩水を入れて盛り上げ、ワイヤーを巻いて焼き切って切り取っていきました。あと30分くらいかけて入念にクリップを撃ち込むように掛けて、出血を止めていきました。11時ちょうどくらいに終了。専門医が摘出した腫瘍をすぐ見せてくれました。「これですか……」と、じっくり血色の小さなものを見ました。病理検査に出して結果はその後わかるとのこと。お礼を言って11時過ぎに帰房。2時間はベッドに安静にしておくこと。まだ腸の出血や穿孔の危険があるとのこと。昨日の点滴は今日から明日もそのまま。水分のみOKですが食事は取れません。成功裡に手術を終えてホッとしました。

ちょうど届いた「民主文学」ベッドに横になって読みはじめました。大学時代、日共に反対しつつ、いい小説も載っていてよく読んだものです。ありがとう。Mさん「無人島」も読んだところ。「『革命の季節』四首」も読みました。「癌を病む重信房子冬の夜は人さびしさに名を呼んでみる」「火だるまとなった抗議にぼくたちの中途半端が炙り出される」（これはユセフ槍森さんの自決のこと）など。歌に照り返されて80歳の歌人の心意気に励まされます。大谷弁護士からの便り。行き違いでした。所属事務所が変わり二度手間恐縮です。Uさん、4月下旬上京するついでに八王子面会に来ること。4月はもう無理です……。5月なら……。でも面会はどちらにしても、むずかしいのではないかと……。旧友なのでダメもとでトライしてくれるとのこと。

4月19日 昨日の晴天と違ってどんより曇り空。点

滴柱をひっぱって窓辺に寄るとタンポポがあちこちに黄色の花。ツツジの赤とピンク、桐の新芽の黄緑が目飛び込んできます。曇天の下に春が広がって息を大きくしているみたいです。昨日のEMRから今朝は少し下血。でも帯状疱疹もよくなって、腸の傷のあたりがチクチクする程度。今日から三分粥。ねり梅6g、みそ汁（具なし）、栄養濃厚流動食メデイエフ200ml、レモネードの朝食。10時に医務部長が回診。少し血が出たこと伝えた。「今のところ痛みがチクチク程度なら大丈夫でしょう。EMRで腸壁を切取っている、そこが薄くなっていて破れる（穿孔）の危険はある。それは激しい痛みが出るのですぐ対処できるようになっています」とおっしゃって、帯状疱疹もチェックし、おさまりつつあるようだとのこと。その後「拭身」。今日の入浴日はまだ入れないので、湯をもらって身体を清潔にします。昼食は三分粥の卵とじスープ、パックの茶わん蒸し75g、テリヌ風ジョア、メデイエフのメニュー、完食！ 3時前に点滴の栄養補給を終えて針を抜きました。身体が自由になってホッ。夕食は三分粥。ゆかり粉、すったリンゴ、ミルクとポテトの濃縮ポタージュ、メデイエフ、レモネード。血圧105/58と低め。

大谷弁護士の手紙、Mさんの連達、Kさんのアドレシ変更、他友人の便り届きました。今日も週末もゆったり過ごそうと思っています。

4月20日 曇天は雨に変わり寒い一日。今日から五分粥。朝は昨日と同じ。昼は茶わん蒸しパック、里芋とひき肉大豆の煮物、豆乳バナナ味、五分粥。夕はニンジン入り（粒状に砕いた）ポタージュ、粉と卵入りのお好み焼き風エビ入り大根おろし、すったリンゴとヨーグルトミックス、パック茶わん蒸し。出血も止まり快調。それでも室内体操もやめて、手顔足のマッサージと眼の体操にとどめました。雨の寒いのには驚きつつ地震があちこちで起きているのも気になります。

M子さん忙しいところ、お便りや資料ありがとうございます。彼にもお礼を伝えることでできませんが感謝しています。ベッドでお宅の前の桃園や桜の写真、ポブリーたちを読んだり見たり、デモ集会の様子もいいなあ……。自分の想い意志のままに動いて生きる姿がまぶしい私です。獄×病気の身としてはね！

4月22日 今日は春が戻ってきたようです。それでも最高16最低2℃と朝は寒いです。今日はまだ安静中で、行事の「花まつり法要」も運動も不可。今日か

ら全粥の食事です。午前中、姉がEMR手術がどうだったかと面会に来てくれました。体調は順調に回復中と伝え、姉こそ体調は？と聞くと、花粉症ももうすぐおさまるから大丈夫と言いつつ辛そう……。

午後は主治医の診察。18日の手術時の写真を見せてくれて説明をきちんとしてくれました。1センチの平坦な腫瘍を見つけ、次に病変の下に液注入で盛り上がったところ、それにワイヤーをかけたところ、切ったところ、クリップ（約1センチの金属のもの）7本を血止めにかけてところなどの写真説明。出血も止まって今のところ体調も順調と告げると、腹圧をかけないようにとの助言。また4月8日のCTの分析結果、肺も肝臓も腫瘍らしきものはなかったと結論づけたと伝えてくれました。帯状疱疹の痛みがぶり返している、夕方からまた薬を服用することにしました。

房に戻って図書新聞を受取り開いて、「60年代・70年代を検証する」第22回をすぐ読みました。救援連絡センターを水戸巖さんと共に創設された創設時から事務局長を担われた水戸喜世子さんのインタビュー記事です。60年代、運動の高揚の中で弾圧・長期拘留が常態化していく権力の露骨な動きに対して、水戸さんらこうした努力を重ねてくださったと、改めて実感感謝の思いで一杯です。と共に先鋭化していく運動を、人々と広く深くと担えなかったあの時代の過りを痛感。水戸さんらは「セクト主義」から救援の原則をなんとか守ろうとずっと闘っていたのです。水戸巖さんがリッジ闘争のあと、岡本同志のために庄司弁護士をイスラエルの法廷に弁護士として出廷するために奔走してくださったこと、庄司先生からも聞いています。「1、国家権力によるただ一人の人民に対する基本的人権の侵害をも全人民への弾圧であるとみなす2、国家権力による弾圧に対しては政治思想的信条をとわず救援する」。水戸さんらの闘いを、センターの顧問弁護士であった庄司先生を通して聞き、またいつも支えられ、今日も支えられています。唯そんなすばらしい巖さんと二人の息子さんを一度に冬山で失い、その後の喜世子さんの淡々とした語りには、涙なしには読めません。本当にすごい。哀しみから再生されて、かつてからの闘い「脱原発」をも心を込めて継承していく姿にうたれます。死にたい、死ねない、死なないで良かった、という心からの想い。若者たちにも「絶望しそうになっても絶対死ねない、と伝えたい。今生きていて闘えて本当によかったと思えますから」と、インタビューの終りでも語っています。こういう闘う志を学び、共にありたいと強く思いました。

オリブの唄 第117号

4月23日 また寒い。安静は明日まで続きます。でも入浴は許されて、今日1週間ぶりの入浴。さっぱりしたところです。TVや運動の時間にはお便り資料受取り読んでいます。「緑の党」の資料、「情報センター通信」「山シロ博治さんを応援しよう！勝手連・東日本」結成総会の案内もあります。沖縄平和運動センターの山シロ博治さんは護憲・改憲阻止勢力が、「改憲勢力3分の2獲得阻止の闘い」の最前線として参議院選に応援する人です。メディアのアベイズムムードの中で、日本は本当に危ない。アジアから批判される自らの歴史に向き合わず、尖閣諸島を「国有化」したり、靖国参拝したり、主観はどうあれ、日本政府の側から盛んに「挑発」している姿が対象化できないまま96条改変・9条改憲まで進む2013年は今後の日本百年の岐路にあります。山シロさんを！（「山シロ」では……国民感覚は「やましろ」では？）

「磯江通信」届いて、新刊案内『丸岡修自述・元日本赤軍軍事機関代表告白録』のタイトルでもうすぐ出版！感謝！ Yさん「土曜会報告」ありがとう。今回は岡村さん鬼さんも出られなかったのですね。暴風雨近づいた4月6日。経産省前テント村の近況R介の報告。これから裁判闘争を受けて立つ大きな弁護団支援態勢づくり、土曜会代表としてR介が参加しているのは心強い。エールと連帯！ 他いっぱい脱原発各地報告、書ききれない。（柏崎刈羽現地参加・義援「ウシトラ旅団」の活動、山形置賜の福島子供支援もTPP報告も。）ちょうどメイも日本に戻っていて参加し、イラク戦争10周年の検証の活動でイラク人ジャーナリストらと各地をまわった活動や現在の仕事のこと、それに海外での日本の政治犯として私の釈放要求があるなど、面会では時間がなくて聞けていない話を知りましたよ。メイの本も5刷を重ねたんですね。レポートにあるように「共謀共同正犯」のこと、また日本の獄の実情などは救援連絡センターで学習するか、センターに海外向けの概括パンフを作ってもらうなど、海外で日本の「後進国並み」の獄中処遇を伝えることが必要なグローバル時代の要請です。土曜会ありがとう。

他お便りありがとう！ 届くと心が忙しで、気分活性化、うれしいです。Mさん4・28闘争ですね！ 平和の要求は切実であればあるほど厳しく激しい闘いです。パレスチナのように。4・28沖縄に連帯！ 宮崎先生、先生ご自身のような句。“遅しく立つ老木に春若葉”。大谷弁護士より5月2日面会の便り。ひさしぶり。お待ちしております。

4月24日 今日から普通食。でも運動は不可。とっても寒く雨も降って、2-3月気分の八王子です。でも窓の向こうの咲きはじめてのツツジたちががんばってる感じです。Mさん、俳人の稲畑汀子の印象深い毎日新聞の記事のことから生れて今日は短歌です。“戦争なき未来築かん空襲に家焼かれたる句を読みたれば”。汀子さんの一句、“その未明焼かれし我が家原爆忌”からMさんの一首が生まれたのですね。

4月25日 予報は雨でしたが曇天の起床時から東南の空は晴、1週間ぶりにペランダの運動が可能になりました。ペランダに出て大きく深呼吸。ラジオ体操のあとは私語もOKなので、みな寄ってきて「大丈夫」「どうだった」「居なくなったので、もう帰ったのかと思った！」など案じてくれます。運動に出なければ体調が悪いか、移監のどれかです。患者同士はお互いにいたわり合います。「大丈夫！」と答えながら、気になっていたプランターにいそいそ。花アヤメの紫がみごとな花を4つも咲かせています。1週間前には蕾だったのに。それにもう一つプランター。石竹の花。でもナデシコと掛け合わせたのか、花茎にいくつも咲いて、大きなナデシコのように。春は次から次と花咲き、いつのまにか新緑の初夏に変わります。梅はもう若葉が溢れています。

午後診察。主治医と医務部長同席のうえで、「4月18日EMR手術の病理検査結果が出たので伝えます」と告げられました。ポリプ切り取ったものは腫瘍の中に『高分化型腺癌』が見つかりました。粘膜が癌化していたが、粘膜下層や筋層にまでは広がって、血管やリンパ節への転移のない原発性のガンです。また切り取った断端にもガンは認められず、きちんとガンは取りきったことが確認されています」とのこと。「えー、初期でもまたガン化していたのですか」と驚いて訊ねると、平坦なポリプは初期からガン化しやすく悪性度が高いので、今回専門医に慎重にEMRを行ってもらったようです。きのこのようなポリプは一般的に2センチ近くになってガン化することが多いようですが、去年私のは5ミリでガンだったし、今回も1センチでガンでした。「今のところ、これで全部摘りきりましたが、5年以内に再発する危険が高い。重信さんはガン化しやすいので注意が必要」と言われましたが、移監しても1年に1度内視鏡検査でチェック可能ならいいですが、この八王子のようにはいかないのが大変なところです。これで開腹手術3回含めて、ガンで切り取ったのは2009年に3ヶ所（小腸大腸）

12年に1ヶ所（大腸）計8ヶ所。ここにいて助かったのですが、普通の刑務所医療では不安です。

4月26日 ラジオからは明日からのゴールデンウィークの話が再三。獄では手紙資料交付が途絶える時になります。今日まではいろいろ届きます。宮崎先生、MさんUさんありがとう。「情況」も届いて特集の「危機にゆれるアフリカ・アルジェリア事件」やパレスチナの論文など、興味深いテーマ読みはじめました。「室伏史観」楽しみでしたが最終回ですね。「花ごよみ」「壮快」感謝。

真夜中おぼろに燃えるような十六夜月見つけました。

4月30日 午前中に休み中のお便りなど受け取りました。Uさん金曜26日にわざわざ差し入れに来てくださったのですね。ありがとうございます。「刑務所の門の脇にポストがあったので腰をかけて書いてます」とのこと。ツツジがきれいに咲いている刑務所ですって。

Mさんお便り「戦争と俳句」について書くとのこと。すでに半分読んでますが楽しみです。それからうれしいニュースもありがとう。米澤さんの被爆体験、由井さんが子ども向けに書いて、小学館から出るのですね！！ 由井さんよかったです！それで多忙なのね。米澤さんの体験はぜひとも子どもたちにも届いてほしい。本当にうれしいです。本当にうれしいです。宮崎先生のどの句も笑いが浮かぶものですが、その中から「まじめ」な一句、「バリバリと欲求不満で菓子を食い」（「凡人凡夫」より）。パワーエネルギー余ってるご様子。デジカメ歌人「穀雨」にオオバベニガシワ（大葉紅柏）の真紅の若葉の写真に「庭」三首。“建て込みて陽も訪れぬ裏庭の父が残せし青桐を切る”を選びます。Nちゃんの“百合の花見ても描いても楽しいよ”Tさんの“葉も枯れて残るうわし百合二輪”の句もいいです。

午後『方丈記』『オリバー・ストーンが語るもうひとつのアメリカ史』など資料本届きました。夕方カンパ受け取りました。感謝。Kさん中央アルプスで球根を夫と共に歩いた時に求めた黒百合が今年も咲いたと、蕾から開きはじめての写真。彼との昔と変わらぬ存在感が読んでいてホッとします。

5月1日 メーデーの気配のない八王子5月。少し肌寒い。それでも久しぶりの運動場への機会。スズランが咲き、色とりどりのツツジ、それに春紫苑まっ盛り！ 蕾はうつむいて花咲く天を向いて可憐。それにクロウ



バーも一杯、芝生は緑。まだ走れず芝生やトラックウォーキング楽しみました。

ネットのシリア、レバノンの記事ありがとう。もっとレバノンの組閣のこと知りたいです。Mさんからは「戦争と俳句」の続き結論が明解ですね。宮崎先生、友人の訃報が届いたとのこと。“友は死に友はまた逝きまた逝きぬ”。明るい5月が待っています。

5月2日 少し雲が多い五月の八王子、明日から4連休です。

午後大谷弁護士と面会。指名医のこと、この間のEMR手術の病理検査結果がまたガンだったことなどを話しました。大谷弁護士の話では、なんだか私が危篤のような噂があったらしく、問合せがあったとのこと。元気な私の方がびっくり。ここに居る間は大丈夫ですが、移監後の再発ガンが気がかりです。定期的な血液・内視鏡検査が保障されないでしょうから。八王子医療刑も移転が予定されているので、新しい移転先にこのまま移されるといいのに、と大谷弁護士。八王子の市長選の市政方針でも、平成25年からの八王子医療刑の跡地を、市民公園にするべし云々と前に新聞に出ていたので、引越は近いのかもしれない。病状やそんな話をしているうちに30分の制限時間はすぐです。大谷弁護士も4月から事務所が変わり、大忙しの最中、面会くださって感謝。

友人たちのお便りありがとう。Uさん上京中のいろんな話楽しく読みました。「よど号」の仲間たちの出版パーティもよかったですってね。それから経産省前のテント訪問や友人たちとの交流など情景描きつつ読みました。

5月5日 立夏です。晴天の連休です。5月3日は二つの意見広告が新聞に載っています。毎年憲法を読み

リープの欄 第17号

返しつつ、意見広告をじっくり見るのが私の憲法記念日の過ごし方です。今年は96条をめぐる、政権自民党などが煽り立てていましたが、憲法記念日前の朝日新聞世論調査では、96条を変えて過半数に緩める主張に反対が54%（賛成38%）、9条についても「変えない方が良い」が52%（「変える方が良い39%」）と、国民は健全な意見を示しています。

今後こうした意志をあらゆる機会に広げ、参議院選で自民・維新・みんなの党を越える96条堅持派に勝利してもらいたいのですが、民主党政権の後遺症で選挙というやり方ではなかなかむずかしい。唯一全96条堅持国民連合が、票の分散を避ければと思いますが、比例区で競い合うのでむずかしいのが現実のようです。それにしてもなんとかならないのかと辺境で思っています。

祝日の一品、5月3日は小さな扇型のバームクーヘン2個（2口くらの小さいもの）、4日はココアコーラ、5日はおしるこでした。今日はちょうど雑誌（文藝春秋5月号）を読んで「医療特集」の鼎談に、こんな箇所を見つけました。「小腸のがんは大腸に比べると圧倒的に少ないんです。なぜ少ないのかはわかっていませんけど、小腸の粘膜は新陳代謝が非常に速いので、がん化してもすぐその細胞が死んでしまうという説が一つ。もう一つは僕独自の説で、小腸にがんができやすい種族はもう滅びてしまったということも考えられる。いずれにしろ、小腸のがんになったら動物は生き延びられない。生命にかかわる重要な機能を担っている器官ですから」と。大腸は発見が早ければ100%治ると言いつつ小腸は難しいとのこと。私はその小腸ガンが大腸手術時発見されて切り、去年はその転移ガンが見つかって、また小腸のリンパ節にできていたのを切り、「低分化癌」と質の悪いものでした。不思議に幸運に生きのびているんだなあと、今日は改めて実感しているところです。小腸ガンは主治医も「多くの経験でも初めて」と言っていたのを思い出しつつ、うーん、滅びゆく種族よ！ ですね。

5月7日 連休明けで、運動のためにベランダに出ると、「セキチク」の色とりどりの花一杯のプランターが3鉢に加え、「みやこわすれ」の鉢も花盛りです。5月の風がさっと吹いて気持ちよい運動30分。もう大丈夫だろう腸も破れないだろうと、今日はベランダの狭いところをゆっくり300歩走ってみました。あとはウォーキング。房に戻ったら布団干しの順番で外に持って行って干して午後に戻してくれました。午後はT

V、バラエティだけどもなものの「体調について」とか。

I子さんお便りかわいいネコの便箋封筒でありがとう。いろんなこと書いてくださって楽しく読みました。庭には色とりどりのツツジにてっせん、きっと亡き父上の育てられたもの？ 家の前、田んぼなのですね。そこに「今、一初が咲いていて、ああ五月だなあという気持ちになります」と、いちばつはきれいですね——！ 一句がとっても効いています。「山吹にゆるる心を見ずかされ」。またお便り書いてね。忠紀さんは「何が主権回復の式典や、沖縄の高江・辺野古につながる奈良の会も沖縄と共に怒っております」と。4月の斗いのこと日々の斗いを「小さきこと喜ぶ日々よ四月尽」と詠んでいます。宮崎先生は雪が残り桜の花菜の花も穂高の一番良い季節とのこと。

みなさんの連休を想像しています。休み中の届いていた資料も受け取りました。ありがとうございます。

5月8日 体調は良好。五月晴れの運動場へ。ずらんが足元に楚々と咲いています。クローバーの匂いが気持ちいい風に乗って届き、春紫苑はもういっせいに空を向いて咲き、うつむいた蕾はありません。黄色はノゲシ、タンポポ、母子草。それにツツジ満開。柄の葉も桜の葉も若緑。ここの一番いい季節です。運動場をゆっくりと2周。腸ももう走っても大丈夫。おしゃべりしながらウォーキングのあと、緑いっばいに変わった芝生で真向法、TさんやKさんが本を送ってくれたりして学んだ真向法です。これは芝生の上でやると気持ちいい。私より年の若い人と年寄りの人にも教えてあげて、空をあおいでフーと腹式呼吸。今日は雲一つない空です。

午後は主治医の診察。「あの平坦ポリープガン化したもの、どのくらい経っているのですか？」と訊ねると、「一概に言えない。答えるとしたら1年から10年とといったところですよ」とのこと。腫瘍マーカーに数値が現れるのは数年先で、本当に良い時にみつけましたとDr. これはDrのおかげです。写真で見ると、うすく出血していて潜血反応が3月陽性だったのは、これも可能性がありとのこと（歯からの出血とみなしていたのですが）。大腸ガンは潜血反応検査をまずやり、陽性なら内視鏡検査をやるもので、早期発見は100%治るらしいです。でも5年以内の再発や私の小腸ガンの「低分化ガン（悪質性）」は今後も気をつけなければならぬとのこと。これまでの私の治療費は大変な額のように（一般社会に居たら）。「税金のお世話」

を強いられている身ですが、お返し貢献として早く変革の道を継続しなくちゃと思っています。

うれしい！ 島崎さんありがとうございます。『安井かずみがいた時代』夕方受け取りました。私が不在の日本の時代を読みながら感じてみたいです。まだ大学時代の70年まで、作詞や訳詩に友人関係もあって興味を持っていた私。岩谷時子とか安井かずみとか、学生運動の中でも語り合う文化のルーズさが楽しめた時代です。安井かずみの初期の頃70年までしか知らないけど、読んでみたいです。

友人たちのお便り連休中も脱原発や講演会とか、みな活発な様子。5月は私にとっては、また私のアラブ時代の友人たちにとっても大切な月。リッダ闘争、パ

リッダ闘争の頃、わたしは何をしていたか？

森本 忠紀

大和高田市で高校生向けにやっていた英語学習塾が新たに募集をかけたのが功を奏して4月から生徒が倍増し、前途明るいものがありました。

69年3月、大学闘争の最中に京大卒、5月に結婚して大和高田の実家に同居しました。71年2月に生まれた女兒がこのころには喜んで歩き始めていました。この年早々に京大全共闘のリーダーで全国に名を馳せた滝田修さんに逮捕状が出たことが新聞に大きく報道されました。滝田さんは容疑をでっち上げる権力に真っ向から挑みました。捕まることを拒否して抵抗する、そのことによって闘うという決断をしました。

とりあえず、どこかへ隠れんとあかん、どこがええやろ、ちゅうきとどこがええやろということになりました。「匿たつてくれへんか？」と電話で言ってきたのは、泰ちゃん、泰ちゃんとみんなから慕われていた、「白樺」のマスターです。一応、連れ合いのT子さんに聞いてみましたが、異存ある人ではありません。結婚一年ほどで、父親が同じ大和高田市に新たな家を手に入れて、ぼくたち新婚家族を残して、親兄弟、祖父がそちらに引っ越して、あいた部屋はあるし、塾の生徒以外の人の出入りはほとんどなく、匿うにはもってこいでした。それで、四月まで三か月間滞在していました。

その後、東京へ移ることになって、高校時代の友人の協力などもあって、東京まで車で逃がしました。連合赤軍事件はちょうど滝田さん滞在中に起こりました。「山田やないか。」と驚きの声をあげた滝田さんと一緒に呆然とテレビの画面を覗いていたのを覚えています。

レスチナのナクパの斗い、そして丸岡さんの、今年はまだ三回忌です。5月は空を見上げて、つながっているパレスチナを想い、自分を問いつつ日々でもあります。内からパワーが溢れ、何かせすにはいられない私の五月！です。

PS 今、『「拉致疑惑」と帰国』が届いた。Kさんありがとうございます。しっかり読みます。

重信さんは2010年8月16日の刑確定後は通信回数枚数が制限され、(月5通、1通便箋7枚)、おにも親族と弁護士宛に通信されています。この「狼居より」はその通信の「日誌」部分を編集室が抄出したものです。



逃亡ルートから警察のキャッチするところとなって、ぼくたち夫婦が逮捕されたのは、リッダ闘争があった直後、6月のことです。つれあいのT子さんは東京の、次に匿ってもらうところへ滝田さんを送り届ける役を担ったので、ぼくに続いて捕まりました。両親にとっては寝耳に水の、大びっくりのできごとでした。特に母親は大ショックで、外へも出れないくらいの打撃を受けました。これで学習塾もつぶれ、リッダ闘争があった72年は、ぼくの生活にも大きな出来事が次々起きた年でした。

ただ当時のぼくにはパレスチナはとても遠くて、喧々ごうごうと非難されるリッダ闘争をどうやって弁護すればよいか思い悩んだくらいですが、T子さんは、「ちゅうきさん、パレスチナへ行かないのかな」と見ているようでした。詩的想像力とインスピレーションを併せ内に持つ彼女からは、ぼくのような凡俗な男はさぞもどかしいことだったでしょう。

命を燃やした若者たちの墓標

大谷 恭子

2012年12月1日、国連総会はパレスチナをオブザーバー国家として承認した。議決権を有する正式な国家ではないが、そのための確実な一歩である。

パレスチナ国家の樹立、これはパレスチナの人たちの悲願である。国家として認められたら、イスラエルの暴虐無尽の振る舞いも国家間の問題として、もっと許されなくなるはずだ。そして、その時には、本書の著者である重信房子さんはもとより、ここに登場する日本赤軍の人々は、名誉市民としてパレスチナに迎え入れられることだろう。とくに1972年5月30日、イスラエル占領下のリッダ空港（イスラエル名テルアビブ空港）でパレスチナのために命をかけて戦い、命を落とした奥平さん、安田さん、そして現在レバノンに政治亡命が認められている岡本さんたちは、建国の英雄として、パレスチナの歴史に残り、称えられるだろう。

2000年国際指名手配されていた重信さんが国内で逮捕され、以降、私は彼女の刑事弁護人だった。事件は1974年オランダのハーグにあるフランス大使館占拠事件。私は、パレスチナ建国が間に合わなかったのか、と何度も思った。彼女が罪に問われている事件は、パレスチナ民族解放戦線（PFLP）の闘いだった。当時も今もそうだが、パレスチナの人々は、アメリカをバックに圧倒的軍事力をもつイスラエルに対し、民族の悲願をかけて抵抗していた。

その当時からの同志であり、今はパレスチナ自治政府の要人となっているライラ・ハリドさんが重信さんのために東京地裁101号法廷に立ち、証言の最後に

裁判長に、「罰ではなく褒章を！」と格調高く求めた。その証言は説得力があり、きっと裁判長にながしかの影響を与えたはずだ。その気持ちはライラさん一人のものではなくパレスチナの人々の共通な思いである。私は2001年ペイルートを訪れ、アラブではリッダ闘争が鮮明に記憶され、岡本さんが多くの人々に感謝されていることを知った。

日本の若者が、なぜパレスチナに、しかも命をかけることができたのか。

本書の時代である1970年代初頭、「革命」とか「義勇兵」という言葉は、少なくとも学生たちの間には生きていて、まだ死語とはなっていなかった。

今から思えば、それは、わが国において、革命が現実的であったというわけではない。しかし、若者は本気で、真摯に、武力で世界を変える「暴力革命」か、議会で多数を得て世界を変える「平和革命」かを論争し、何より他者の痛みに激しく共感していた。ベトナムで日々強国アメリカに殺戮される民衆の痛みを思うとき、議席を伸ばすことによる変革はあまりに迅速で、それこそ非現実的に思われ、もっと直截的に世界と対峙することを求めた。ベトナムのみならず、世界の各地で起きていた民族の自立の闘いに、若者たちが国境を超えてあれほど敏感になれた時代はなかっただろう。

しかし論じ、共感することと、自ら行動し、しかも命をかけることは別だ。これを超えた若者たちの記録が本書なのである。

本書はパレスチナのために命をかけた人たちの墓標の書でもある。リッダ闘争でイスラエル兵に蜂の巣にされたのかあるいは自爆したのか、奥平さんと安田さん、それは訓練中のことだったのか、水泳中事故死した山田さん、ヨルダンに捕らわれ虐殺された日高さん、パレスチナの土地の日にイスラエルに抗議して焼身自死した檜森さん、獄中で誰にも看取られずに苦悶のうちに獄死した丸岡さん、そしてずっと彼らと伴走してきた映画監督の若松孝二さん、彼の不慮の事故死も含め、記憶されなければならない死を、著者が愛情をこめて記録にとどめようとした書である。

そこには彼らの素顔があり、普通の生き生きとした生が描かれている。そのことが分かればわかるほど、

私たちは、だからこそなぜそこまで、と思う気持ちをぬぐえなくなる。生きていてほしかった、と彼らの全ての人に思う。私でさえそうなのだから著者であればなおさらであろう。

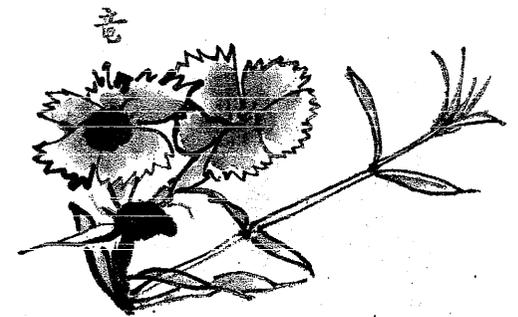
特に深く心情を交わしあっていた奥平さんについては、読むものを戸惑わす。愛するものが死に赴くことがわかった時、それを止めるすべはなかったのか。自分たちの個人的な愛を超える何か、それを共有していたとしても、その作戦が秘密の作戦で決して口外は許されないものであったとしても、そして何より愛するもの自身がその決行を強く望んでいたとしても、それ

でも、それを知ってしまったものがそこに踏みとどまり続けることの意味の強さにたじろがざるをえない。著者は冷たい人ではない。かえってこれ以上愛情深い人は滅多にいないと思える人である。柔軟で愛情深いゆえに、地獄でまた革命やろうと、先に逝き彼岸で待っている、そんな言葉を共有しえる関係をつくれただろう。死が身近に日常の中にある革命の中の愛、それは物語ではなく現実の世界の話である。

「星星峡」(幻冬舎のPR誌)2013年2月号より、同舎のご好意で転載させていただきました。

「革命の季節」を読んで

小西 隆裕



同世代、同志たちへの共感。重信さんが医療刑務所の病床で書いたこの本を読んでいて、何か胸が熱くなるのを感じるのはそのためだと思う。ランボーの「地獄の季節」をボロボロになるまで読み込んでいたという奥平さんと私とでは世界観や革命観は、多分、大きく異なっていたのではないかと。しかし、何か共感するものがある。彼がアラブの地に闘いの場を求めて行ったのも、「連赤」の報に接し、リッダの闘いへの決意をさらに固めるようになったのも、何か肌で分かる感じがする。あのとき、あの空気とともに吸った者、共に闘いに立ち上がった者としての共感。人間にとって、ともに闘うということの意味のなんと大きいことか。

しかし、それにしても、檜森さん、丸岡さんの死は辛かった。奥平、安田さんたちの闘いと死を思い続けた檜森さん。あれからちょうど三十年目のパレスチナ「土地の日」、桜吹雪の舞う日比谷公園で自らに火を放った檜森さん。そして奥平さんたちに後を託され、それに応えた丸岡さん。その丸岡さんが医療刑務所の誰もいないベッドに放置され、耐え難い激痛と怒りの中で無念の死を迎えた。これは余りにも辛すぎる。

その辛さは、この書を医療刑務所で癌との闘いのただ中綴った重信さんへの思いにつながっている。もちろん、彼女はいつどこにあっていても楽天的だ。絶対に希望を失わない。それは、彼女が広く深くあたたかく人々とつながっているからに違いない。彼女は、この書の最後を次のように結んでいる。

・・・戦死した先達の命を引き継いだ闘いが、パレスチナでもアラブでもまた日本でも、それぞれの地の闘い方で、力強く生まれつづけているのを、辺境から、今、私ははっきりと見える気がしている。私は200

8年末にみつかったガン治療中の身ではあるが、共にそんな社会に立ち返る夢を大きくしている。・・・すごい人だ。彼女には「辛い」という言葉は似合わないのかもしれない。しかし、私としてはやはり辛い。その辛さは、主として自分へのものだ。何もできていない、そしてできない、自分への辛さだ。

タイトルは「革命の季節」。おそらく「地獄の季節」から採ったのだろう。本書の全編には今は亡き同志たちへの追悼の思いが流れている。と言うより、この書自体が追悼の書に思える。そのように言えば、重信さんの意思には反しているのかもしれない。だが、私にはどうしてもそう思ってしまう。

問われているのは、同志たちの命を引き継ぐ闘いだ。重信さんは、それが力強く生まれつづけている、はっきりと見える気がすると言っている。この底抜けの信念と楽観に伝えることこそ私たちの務めだろう。本書を辛い追悼の書ではなく、希望に満ちた未来への里程表の書にするためにも。 (2013/4/8)



丸岡 修 著

丸岡修自述

——元・日本赤軍軍事指揮官告白録——

5月下旬発売 風塵社発行 定価 2940円(税込) A5判 512頁

人が人らしく人として共に生きられる世界を夢見た男の物語
丸岡は詩作を好んだが預言者ではなかった。イラストは得意であったが、歌や音楽は苦手であった。そして、実直で誠実な軍人であった。2011年5月29日、八王子医療刑務所で拡張型心筋症によって亡くなった著者の60年の人生を、著者が遺した文章・証言で再構成した。



目次

黒の告白

第一章 自分史

第二章 重信房子公判丸岡修証人出廷証言

第三章 遺稿

第四章 関係者の証言

足立正生 丸岡修との優雅な日々

浴田由紀子 ヨーロッパの街角で

重信房子 アルコールとキャベツと司祭様

戸平和夫 丸岡同志の思い出

山本万里子 出会った頃の丸岡さん

大谷恭子 現代の拷問——施錠された独房
の中での苦闘死

・丸岡修年譜

後 書

4、5日前の早朝、「独居より」の入力作業をしていて、「日本ではThe United Nationsを「国際連合」というが、中国らでは「連合国」という。第二次大戦のドイツ、イタリア、日本ら「中枢国」に対する米英ソなどをさす「連合国」と同じ」とラジオで寺島実郎が話していた。中国語では「聯合國」と表記するらしい。寺島氏の話の全体の主旨は失念したが、なぜこの文言だけが頭に残った。

日本でいう「国連」は、元もと「中枢国」に対する軍事同盟「連合国」の米ソ英中が生みの親、「国連憲章」は「連合国憲章」ということになる。ついでに日本が国連加盟を承認されたのは1956年、イタリアは1955年、東西のドイツは1973年である。日本では、事務方の段階でThe United Nationsを、数年前の敵である「連合国」では、ということで「国際連合」という訳語を当てることになったらしい。

安倍君の靖国参拝発言、慰安婦発言、「村山談話をそのまま継承することはない」などは、当然中国、韓国、アメリカにいたるまでの大抗議、大ブーイング。安倍君は70年近く前の米・中「連合国」をよみがえらせた具合である。ところで安倍君は日本は侵略戦争を行わなかったと言いたいらしい。ではなぜ南の島々や大陸で多数の日本兵は死んだのか。他国に居た、侵略していたからである。アメリカや中国の「自衛」行為を問うことはさておき、安倍君の「美しい国土」などという危険な「自衛」に付き合うのは断固拒否。 Q

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

支援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

頒布価格 500円

「正誤」表

第 117 号

- ① 2P上から14行目 国連統合のパレスチナ→国連総会の
- ② 2P下から3行目 脱原発平和交渉の→脱原発平和9条外交の
- ③ 4P(3/15)下から2行目 「イラク侵略戦争 10 周年」のイベント(カッコ)
- ④ 5P(3/25)4行目 五Cだけ→午後だけ
- ⑤ 7P(4/3)上から16行目 菌からの出血→歯からの出血
- ⑥ 8P(4/4)左下から1行目 肘について字を書くので
→うまく書けません。枕頭台の机の部分のスペースが小さいためです。
獄も・・・(挿入)
- ⑦ 15P(4/25)左上から1行目 ~1ヶ所(大腸)計8ヶ所
→1ヶ所(大腸)子宮計8ヶ所
- ⑧ 15P(4/30)左13行目 本当にうれしいです。→トル(ダブリ)
- ⑨ 15P(5/1)左下から1行目 花咲く天を向く→花咲くと天を向いて